

特集

看護師特定能力認証制度(案) 看護の新しい役割と人材育成

看護師の特定能力認証制度(案)のこれまでの議論 岩澤和子

【座談会】私たちは何を学んでいるか

渡邊 孝／佐藤志保／廣末美幸／永谷ますみ／下村 愛

新しい人材育成にける期待 金田嘉清／山田静子／山添世津子／酒井博崇／泉山久代／

村上友悟／谷田真一／田山裕介／伏見直記

【連載】

「交流」を通して教育力を高める——広島県専任教員継続研修の試み・2 波多野文子ほか

「看護」を一生ものの仕事に 基礎教育で学ばせたい、医療現場のリスクとその対策・3(最終回)

小川 忍

「書く力」でステキな看護師をつくらう・9 松岡志帆

九州・沖縄からの風 学生が綴る看護への想い・12(最終回) 大嶺健一

実習の経験知 育ちの支援で師は育つ・16 新納美美

ナイチンゲール伝・18(最終回) 茨木 保

Mail From USA ——『JNE』を読み、世界の看護教育の流れを知る・44 喜吉紘子

編集後記

◎編集室ツイッター <http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

●新人看護師のリアリティショックは、昔から大きな課題でした。その対策として統合実習がカリキュラムに取り入れられたのは最近のことですが、多くの教育現場で、それに先駆けた試みはされてきていたと思います。今回取り上げた「複数受け持ち」実習にしても、そう銘打たずとも、実際に行っていた学校は、実はけっこうあったかもしれません。もっとも、多くの学校では、今も試行錯誤が続いていることから、今回の特集は、具体的な取り組みが紹介されたこともあり、かなり参考にしやすいのではないかと思います。●ただ、現場の看護師がなかなか得られない、一人の患者さんとじっくり向き合う時間は、それなりに学生にも患者さんにも貴重なものです。現場を体験することだけでなく、学生でなければできないことにも気を配っていただきたいと願っています。……大野

●日常のちょっとしたことで、複数の対象に注意を向けるのは困難なものです。私の場合、クイズ番組の答えの発表を気にかけつつ、週末の予定を電話で相談しながら野菜炒めを作っていると、いつの間にかチャーハンが出来上がってたりします。いったい何が米を投入させたのか、不思議でなりません。●一人の患者さんのことだけでも緊張しっぱなしの臨地実習。それが複数受け持ちとなれば、常に他の患者さんの存在を頭に置きながらの看護になります。学生が「チャーハン」を作ってしまったのか心配です。●ともあれ、負担が大きい分だけ得るものも多く、入職後の様子を知るためにも意義深い実習であることは間違いありません。ぜひよい準備をして効果的に進めていただければと思います。考えてみたら先生方は数十人の学生を受け持っておられるわけですね。お見逃ししました。……加藤

看護教育 第53巻 第11号 2012年11月25日発行(毎月1回25日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2012, Printed in Japan

1部定価1,470円(本体1,400円+税5%) 2012年・年ぎめ予約購読料(増大号を含む12冊)

冊子のみ16,250円、冊子+電子版(個人)19,250円、冊子+電子版(共有)21,700円、電子版/個人16,250円、

電子版/共有18,800円(いずれも税込、送料弊社負担)

発行:株式会社医学書院 代表者:金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 加藤・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写、スキャン、デジタルデータ化など)は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的(診療、研究活動を含む)で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

【JCOPY】(社)出版者著作権管理機構委託出版物)

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつと事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969、FAX03-3513-6979、info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/12/¥250/論文/JCOPYが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。

Vol.53 No.10

2012年10月
特集

コミュニケーション力を育む 実習前に教員としてできること

普段の教室とは違う生きた臨床現場で行う臨地実習は、学生が講義や演習で学んできた「知識・技術」を「実践」へとつなぐための大変貴重な機会です。しかし、実習を経験した学生からは「患者さんの思いをくみとることができない」「どのような言葉をかけたらいかわからない」などといった声が多く聞かれ、看護の知識・技術以前の問題に思い悩んでいる様子が伺えます。また、もちろんこのコミュニケーション自体も学生が学ぶべき大切な看護実践であることは言うまでもありません。

では、学生が戸惑うことなく各領域の実習を開始し、知識・技術の統合とさらなるコミュニケーション力の向上を実現するために、日々の学校生活のなかで教員はどのように働きかければよいのでしょうか。本特集では、学生にとって一大イベントである臨地実習から、その先の看護実践までを見据えて、日頃から学校で行えるさまざまなコミュニケーション教育の方法をご紹介します。

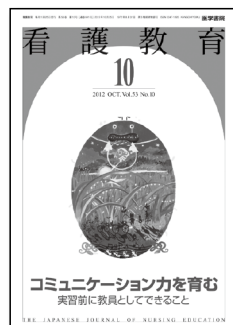
■学生がコミュニケーション能力を育成できる環境をつくる……………菱沼典子

■ロールプレイングを用いたコミュニケーション教育……………川野雅資・石川純子

■小児看護学実習前のコミュニケーション力トレーニングと授業展開——学生の受け留める力・伝える力・チーム力の育成……………山元恵子・若瀬淳子・高橋 亮

■当事者の話をよくよく聞く——被災地支援と看護相談での学生の学び……………山田雅子

■専門看護師に聞く——領域ごとに求められるコミュニケーション力
精神看護……………河野佐代子／母性看護……………長坂桂子／老年看護……………藤田冬子／小児看護……………本多有利子



Vol.53 No.9

2012年9月
特集

学問としての在宅看護論の確立へ

在宅看護論が1997年に科目として新設されてから15年、2009年のカリキュラム改正で「統合分野」に位置づけられてから3年が経ちました。この間、医療を取り巻く社会のさらなる変化として、「在宅での看取り」「医療依存度の高い利用者への看護」の推進に向けた、24時間365日対応の訪問看護に代表される地域医療資源の整備が、「地域包括ケアシステム」という名の国策として求められる時代になりました。2011年には日本在宅看護学会も発足し、学問体系として確立するための動きも顕著です。

本特集では、既成事実として先行してきた「在宅看護学」の教授法、そして学ぶ者・教える者に必要な資質に迫ります。弊誌5・6号での連続特集『地域看護学と公衆衛生看護学』で示された基礎教育現場の現状整理に続いて、ますます注目が高まっている在宅ケアについて知っておくべき最新の動向をお届けします。

■鼎談：学問としての在宅看護の歴史と未来……………本田彰子・栗本一美・炭谷靖子

■地域の特色を生かした在宅看護学実習の紹介——訪問看護ステーション・富山型サービス・訪問入浴・地域包括支援センターでの展開の実際……………荒木晴美

■「地域社会に求められる看護師」の育成を目指した教育・研究・実践——地域看護学、在宅看護論から、エンド・オブ・ライフケア看護学に至る経験より……………長江弘子

■在宅看護「現場学」への招待——OJTシートによる現任教育への誘い……………本田彰子

【教育現場を経て実践の場で活躍する先達からのメッセージ】

■「在宅ケアの不思議な力・つながる力」に導かれて……………秋山正子

■「開業ナース」として教育・研究・実践のいずれにも邁進する……………村松静子



【2012年8月号 (Vol.53 No.8)】

教務主任養成講習会での
学びを活かす

【2012年5月号 (Vol.53 No.5)】

地域看護学と公衆衛生看護学 Part1
看護学生が学ぶ地域看護学再考

【2012年7月号 (Vol.53 No.7)】

学校をアピールする！
学生確保のためにできること

【2012年4月号 (Vol.53 No.4)】

平成23年度教務主任養成
講習会を振り返る

【2012年6月号 (Vol.53 No.6)】

地域看護学と公衆衛生看護学 Part2
保健師学生が学ぶ公衆衛生看護学再考

【2012年3月号 (Vol.53 No.3)】

災害看護教育に生きたシミュレーションを 震災に焦点をあてて

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2010年9月号(Vol. 51, No.9)以前の号は、東亜ブック(TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2010年10月号(Vol. 51, No.10)以降の号は、医学書院販売部(TEL.03-3817-5659)にお願いします。